

1. この講座は、3年生対象のプログラムと1・2年生対象のプログラムの2種類に分けて実施する。

理由;	3年生は就職活動を前提に進路決定の参考とすることを目指す。 1. 2年生は、就職活動以前に産業界に触れて、働き方、仕事の種類、人間関係の在り方、扱い商品、物の流れ等の知識を得ることを目指して、業種・業界・職種というものがどのようなものであるのかを机上からではなく、早期に現場から吸収する手段とする。
-----	--

2. 原則として、講義はワークショップを柱として進める。

理由;	入社試験では、ESなどの書類審査、筆記試験(SPIなど)、グループディスカッション、グループワーク、複数回にわたる面接、と多くのステップを踏んで行われる。さらには、インターンシップと称してPDCAやハウレンソウの基礎力をチェックするケースが多々表れてきている。当講座では特に、グループディスカッション、グループワーク、PDCAやハウレンソウの基礎力を、少しでもトレーニングして、慣れることを目指す。また、ワークショップには相互理解の力を醸し出す機会が多々あるので、対人関係能力も育つ機会となる。
-----	---

3. 事前、事後の授業を展開する。

理由;	事前授業はビジネスマナーを学び、インターンシップの価値と目的を理解し、なぜ実習に参加するのか自分の目標を明確にできるようにする。事後授業では、実習経験を振り返り、それを今後のステップにいかに関活用するかを考え実践できるように具体化することを目的とする。けじめとして、成果報告会を開く。
-----	--

4. 実習期間は、3年生は2週間(実質10日間)を基本に参加する。1・2年生は3日～5日間とする。

理由;	3年生は、就職活動の準備としてのインターンシップという位置づけである。企業における働き方、自分に合う業界や企業形態など、好き嫌い、向き不向き、関心のあるなし等々、就職するうえでの不可欠な要素を実体験から得て、ミスマッチのない就職へと自らを導ける力を養う期間とする。1・2年生は、就職活動を前提としない。それ以前に、産業界を知ることが必要なので、業種、業界、職種という概念は現実にはどのようなものかを体感することが重要である。そのためには長い時間1企業にて実習体験をするのではなく、2～3社の異業種を体験することを主眼とする。1業種3日～5日の期間が妥当と考える。
-----	---

5. 3年生向けの授業時間を多くする。

理由;	①夏休み期間を利用するのだが、この時期は入社試験と重なるため受け入れ企業は例年より少ない。だからこそ3年生には、4年生の就職活動を目の当たりに見聞き出来るチャンスが例年以上にあると予測できる。「就職活動の準備」という当講座のテーマに合う時期でもあるので、事前・事後の授業はしっかりとポイントを押さえる。②1・2年生は、業種・業界・職種の概念を理解することに重点を置き、また、次年度にも実習参加する心構えを作る。
-----	---

* 講座運営に必要な資料等の作成には貴大学のコピー機を使用させてください。
また、模造紙、マーカー、ポストイットなど講座に必要な備品については貴大学にてご準備ください。